

「子育て世帯既存住宅取得応援金」及び「空き家等の活用・流通補助」の制度説明会 挨拶

京都市住宅政策課企画担当課長の神谷でございます。

日頃は、京都市政に多大なご支援、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。
また、本日は、お忙しい中、説明会にご出席いただきまして、重ねて御礼申し上げます。

さて、京都市では、現在、結婚・子育てという人生の節目で、主に近隣の市町に多くの方が流出する状態が続いています。その要因は、様々あるとは思いますが、令和4年に京都市が行った人口動態分析では、やはり住宅事情が大きいのではないかと分析してございまして、住宅政策といたしましては、新築住宅に比べて立地も価格帯も豊富な「既存住宅の流通」の促進に取り組んでいるところでございます。

しかしながら、地価の高騰による影響が続いており、「京都に住みたい、住み続けたい」のに手が出なくてやむなく転出されているようなケースもあるのではないかと、ということで、この度、2箇年に限定してではございますが、最大限の支援を行っていきたいということで、応援金をご用意させていただいた次第です。

この応援金をきっかけに、若い世代の人口流出を食い止めるとともに、皆さんと一緒に、中古住宅市場を活性化してまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

本日、お集りの皆様をはじめ、事業者の皆様にも、3点お願いがございます。

一つ目は、「京都に住みたい」という若い世代へ、応援金の情報を届けていただきたいと思えます。もちろん、我々、京都市でも精一杯の広告宣伝をしておりますが、不動産取引などの最前線でご活躍の皆様に、ぜひセールスマンになっていただきたいと考えております。

二つ目ですが、若い世代に、マイホームを買ってよかった、京都を選んでよかった、と思っただけのよう、ご協力いただければと思います。

夢を持ってマイホームを購入される方が多いと思えます。この事業は定住いただくことが目的です。応援金をうまく活用してお得に購入いただくとともに、買ってよかったと思っただけ、後悔させない事業にしていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、事業を通じて、子育て世帯のリフォーム事例を収集したいと考えております。よき参考となる事例を集め、今後の広告宣伝や、中古住宅のイメージ刷新などに活用してまいりたいと考えておりますので、こちらの方も、ぜひご協力をお願いできればと思います。

三つ目は、我々、京都市とともに、応援金制度を育ててもらいたいと思います。後ほど詳しい説明がありますが、今回は、従来の補助金に比べて、様々な点で、使いやすく、簡単な手続きとなるよう心がけました。通常は、悪意のあるケースなども想定し、一見すると不必要に見える要件や手続きを入れざるを得ないことが多々ございますが、今回は、これまで皆様と積み上げてきた信頼関係を背景に、できるだけ簡素なものとしたつもりですし、できるだけおおらかに運用してまいりたいと考えておりますので、この良好な関係を発展的に継続していけるよう、ご協力いただきたいと思います。

最後に、応援金を利用される若い世代はもちろん、お集りの皆様をはじめとする事業者の皆様、そして京都市の三方が、やってよかった、これからも続けていきたいと言っていただけの事業になるよう、精一杯頑張りますので、皆様におかれましても、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

本日は限られた時間ではございますが、最後まで、どうぞよろしく願いいたします。